

メッセージ

新しい一年、広宣流布へはつらつと前進されゆく、世界の大切な大切な婦人部・女子部の皆さま方に、心からの感謝と尊敬を込めて、メッセージを贈らせていただきます。

皆さま方が、ますます功德を受け、大きく幸福の境涯を開いていかれますように、そして、一人でも多くの友人の方々が、この最高の希望のスクラムに加わられますように、主人と共々に、私も真剣に祈ってまいります。

本年は「青年学会・拡大の年」です。

日蓮大聖人は、日眼女（にちげんによ）（四条金吾夫人）に「年は・わかうなり福はかさなり候（そうろう）」と仰せになられました。

妙法とともに、来る年も来る朝も、若々しい生命力を發揮し、後継の青年たちと御一緒（ごいっしょ）に、心の財（たから）を積んでいけることは、何と有り難い人生でしょうか。

お陰（かげ）さまで、同志の皆さま方の題目に包まれて、主人は、いよいよの「青年の心」で元気に指揮を執っております。今年で八十四歳になりましたが、東洋でいう「還暦（かんれき）」（六十歳）から数えれば、今再び（ふたたび）の二十四歳だとも申しております。

思えば、六十年前の二月、二十四歳の主人は、師匠である戸田城聖先生の構想を実現しゆくために、広宣流布の拡大の突破口を開きました。蒲田支部の「二月闘争」として語り継がれている、この歴史に、支部婦人部長であった母と共に、私も女子部として、連ならせていただいた一人です。

主人は草創の同志に呼びかけました。

「戸田先生の指導があつて、今の私たちがあります。ご恩返しするには、広宣流布の戦いしかありません。戸田先生の誕生の月を、なんとしても歴史的な金字塔で荘厳しましょう！」と。

「師匠への報恩」——この一念が皆さんの心に燃え広がり、支部は一丸となつて、一人一人が喜び勇んで、新たな力を伸び伸びと發揮していったのです。

主人は、具体的な指針を三点——

① 祈りから始めること

② 近隣など、身近な方々を大切にすること

③ 信心の体験を確信をもって語り切っていくことと示して、率先して最前線に飛び込んでいきました。

その息吹のなかで、当時、大きい支部でも月に百世帯の弘教が進まなかつた壁を破つて、「一カ月で二百一世帯」という金字塔を打ち立てることができたのです。

戸田先生は、それはそれは喜ばれました。全国の同志も、皆、「やればできる」と奮ふるい立ちました。

有名な「諸法実相抄」には、「行学ぎょうがくたへなば絶仏法はあるべからず、我われもいたし人ひとをも教化きょうけ候へ、行学は信心しんよりをこるべく候そうろう、力ちからあらば一文一句いちもんいっくなりともかた談らせ給たまうべし」と仰せです。

御聖訓のままに、いま、日本中、世界中で、青年を中心として二月闘争の精神を受け継ぎながら、躍動やくどうする希望の対話の波なみが起こっております。

主人も、若い皆さん方の奮闘ふんとうの様子を毎日、聞きながら、「新しい時代が来たね。大きな広がりがあったね」と喜んでおります。

一人の新入会の青年からの報告にも、「素晴らしい仏法だから、安心してやっていきなさい。親孝行して、お父さんお母さんに喜んでもらえるようになってね」と励ましておりました。

なお、戸田先生のもとで、第一回の青年部の研究発表会おこなが行われたのも、二月闘争のさなかでありました。

「宗教」と「科学」が大きなテーマで、私も懸命けんめいに研鑽けんざんして発表させていただいたことを、懐なつかしく思い起こします。

未熟な研究発表でありましたが、戸田先生は「女子部が教学を根幹に、一段と強くなることこそ、広宣流布の希望の花である」と笑顔で、私たちを見守ってくださったのです。

じつは、この席上、戸田先生は初めて「私は地球民族主義である」と宣言されました。

とともに、先生が「三代会長は青年部に渡す。三代会長を支えていくなれば、絶対に広宣流布はできます」と断言されたのも、この時です。

以来、六十年――。この恩師の言われる通りに、地球民族主義を体现した創価学会インタナショナルの「平和」「文化」「教育」の連帯は、世界百九十二カ国・地域に及んでおります。

いかなる難があろうとも、三代を貫く師弟の精神を根幹とする限り、世界広宣流布の道は、必ず開いていけることを、私自身、深く確信してやみません。

昨年、来日されました、キルギス・ロシア教育アカデミーのチナーラ・シャケエヴァ学長も、創価の師弟の道を讃えてくださる、世界の知性の一人です。

学長は農村の御家庭に育たれました。お母様からは、内面を大切に、自立した、確固たる信念を持つことを学んだそうです。

そして、大きなことも、焦らずに、一步一步、確実に成し遂げていくよう励まされたといえます。

この母上が、困難な時代にあっても、社会のために貢献していかれたことを、学長は最大の誇りとされ、「母の人生を描こうと思えば、英雄の叙事詩を書くことができます」と語っておられます。

学長が、創価世界女性会館を訪問された折、創価の師弟の足跡の展示を御覧になられながら、「人生というのは、苦勞を乗り越えていけばいくほど輝いていきますね」と感銘深く述懐されていたとも伺いました。

本当に、その通りと思います。昨年、東日本大震災に際しても、被災された皆さま方は、どれほど勇敢に、どれほど粘り強く筆舌に尽くせぬ試練に立ち向かってこられたことでありましょうか。

自分たちも被災されながら、友のために、地域のためにと、献身されゆく創価の友の姿に、社会からも絶大な信頼が寄せられております。

主人が被災地で健闘される御夫妻に送った伝言の一つに、「どうか、今の道をまっしぐらに進んでください。必ず変毒為薬できる時が来ますから。安堵できる時が来たら一緒に万歳を叫ぼうよ。御一家、万歳!と」

主人は、毎日たゆまず、小説『新・人間革命』の執筆しつびつを続けております。それは、創価の母をはじめ、無名にして最も偉大な人間の大英雄である同志の勝利の人生の叙事詩じょじしを断じて書き残すのだとの決心からであると、私は感じ取っております。

結びに、主人が昨年、婦人部・女子部の皆さまに贈った言葉を紹介したいと思います。

陰かげで努力を重ねる女子部の皆さまに、主人は綴りつづ贈りました。

「君よ 今日も立て！」

今日も朗らかに進め！

偉大なるこの人生を勝ちぬき

幸福うたげの宴かぎで飾りゆけ！

貴女あなたの幸福の人生を祈りつつ」

また、創価世界女性会館で私が婦人部の代表の方々と懇談こんだんしている時に、主人から直接電話ちよくせつがかかってきたことがあります。そして、電話口ぐちで主人が申した伝言を、そのまま私が復唱ふくしょうして皆さまにお伝えさせていただきました。

「一人ももれなく、幸福になってください」

「一日一日が、有意義で、楽しい人生を生き抜いてください」

「さらに、どんな苦しいことがあっても、法華經の行者は、すべてを楽しみに変えていく力ちからをもっていなければなりません」

「婦人部、万歳！ 永遠に、幸福と勝利の人生を歩んでください」

私も同じ心で、世界の婦人部・女子部の皆さまに、お題目を送ってまいります。

この世で、一番、深い同志愛で、仲良く、朗らかに人生を前進してまいりますよう！

大事な大事な皆さま方の御健康と御一家の幸福勝利を、心からお祈り申し上げます。

どうか、お体を大切に！

SGI名誉女性部長 池田 香峯子